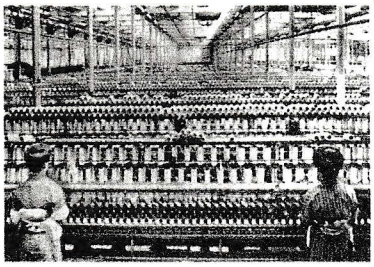
(5) 次郎さんは、綿花の生産の拡大にかかわるおもなできごとを右の年表にまとめた。

年代	綿糸の生産の拡大にかかわるおもなできごと
1883	大阪で日本最大規模の紡績会社が開業する
1890	綿糸の生産量が輸入量を上回る
1897	綿糸の輸出量が輸入量を上回る

次郎さんは、さらに日本が綿糸を輸出できるようになった理由を考えるために当時の紡績工場について調べ、右の資料1、資料2を見つけた。

資料1は1883年に開業した紡績会社の工場のようすを、資料2は紡績工場の労働者のようすを示している。

資料1



資料2

紡績工場の労働者のほとんどは女子労働者で、多くの工場で労働時間は1日12時間、1897年の平均賃金は当時の男子労働者の3分の1以下だった。

綿糸の生産が拡大して輸出できるようになったのはなぜか。その理由を資料1、2をもとにして書きなさい。

（大規模な機械の導入と工場で働く労働者の低い賃金により、綿糸が安く大量に生産できるようになったため。）